

家庭ではぐくまれていること、これからも育てほしいこと

◇保護者の支えがあって、育まれてきたこと

ここ数年の経年変化のデータにより、家庭における基本的な生活習慣においては、保護者の家庭での協力によって、規則正しい生活を送っている児童・生徒が多い傾向が見られます。児童・生徒のよりよい成長につなげるためには、家庭と地域の協力が必要となります。これまで、家庭で取り組んできた積み重ねが着実に成果として表れています。

しかしながら、放課後の学習時間の取組において、例年に比べて低い結果が見られました。この部分については、学校・学級と地域が相互に課題を認識、共にその解決に取り組んでいくことが必要です。

◇家庭での会話で育てていきたいこと

児童・生徒質問紙調査から、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」では高い割合で守っているとの回答となっています。家庭においてもきまりを守ろうとする良好な関係性が築かれていることがわかります。

一方で「一日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」については、小・中学校共に4割近くの人が3時間以上と回答しており、全国平均よりも高い傾向が見られます。コロナ禍で家の中で過ごす時間が増えたことに加え、児童・生徒が1人で自由に使用できるスマートフォンやコンピュータ機器が増えていることなどの影響が考えられます。このことから家庭において多くの時間を児童・生徒が「個の時間」として過ごしていることが伺えます。

テレビゲームの時間が短いグループほど、教科調査の正答率が高いというデータもあることから、一日当たりテレビゲームに費やす時間の長さは課題であると捉えています。家庭版学校教育だよりなどで、保護者に対して改善に向けた理解と協力を呼びかけていくなどの対応が必要であると考えます。

ここまでの分析において「考える」ということを課題として挙げました。家庭において、話す機会を確保することによって、現在の子どもたちの様子や状況について理解することができるとともに、「考えて、発信する」という場が必然的に生じます。家庭においても、話す機会と時間を確保して、児童・生徒にとっての思考力を伸ばしていくためにも、話す機会を大切にしてほしいと思います。

学校ではぐくまれていること、これからも育てていくこと

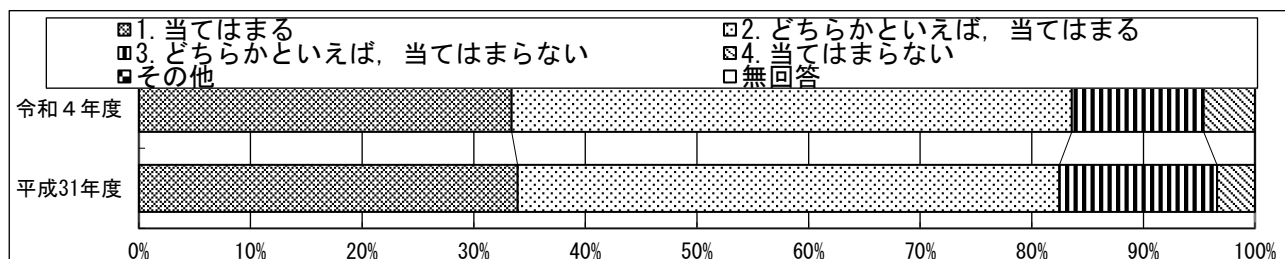
◇先生と児童・生徒との温かい関わりの中で、育まれていること

今年度の質問紙調査結果や日頃の小・中学校の様子から児童・生徒と先生の信頼関係の高さが見られます。これは寒川町の強みとして、今後も大切にしていきたいところです。

【児童生徒質問紙(8)】「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」からは、多くの児童・生徒が先生から認められていると感じていることが分かります。また、【児童生徒質問用紙(14)】「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」では、小学校・中学校ともに全国平均よりも多くの児童・生徒が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えています。このような信頼関係が素地となって、学級・学校での文化が育まれていきます。児童・生徒にとって、信頼関係がある中で、安心して学ぶことができるという基盤があることは、重要なことです。そのような環境の中で、難しいことでも挑戦しようという気持ちが育まれている様子が伺えます。

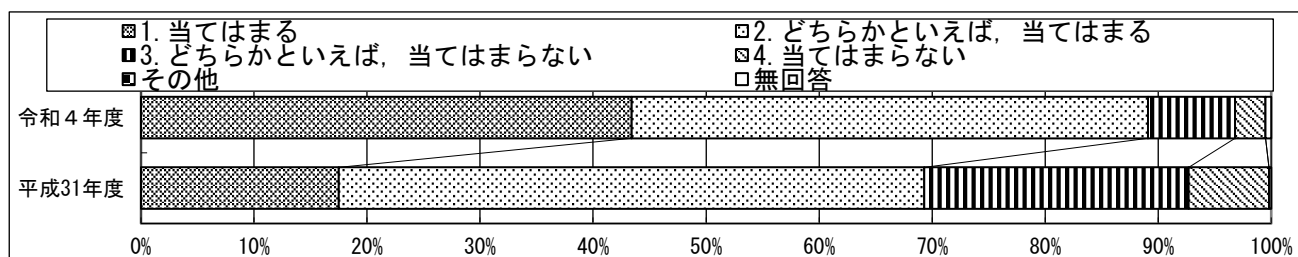
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(8)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	33.4	50.2	11.8	4.6				83.6		0.0	0.0
平成31年度	33.9	48.5	14.1	3.4				82.4		0.0	0.0



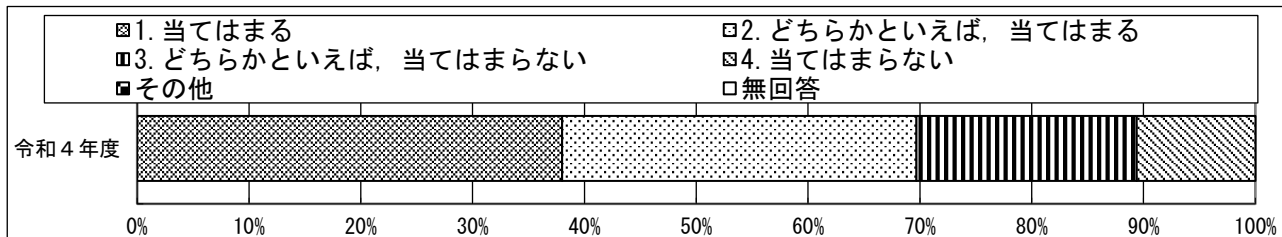
【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(8)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	43.4	45.7	7.7	2.7				89.1		0.0	0.5
平成31年度	17.5	51.8	23.4	7.1				69.3		0.0	0.2



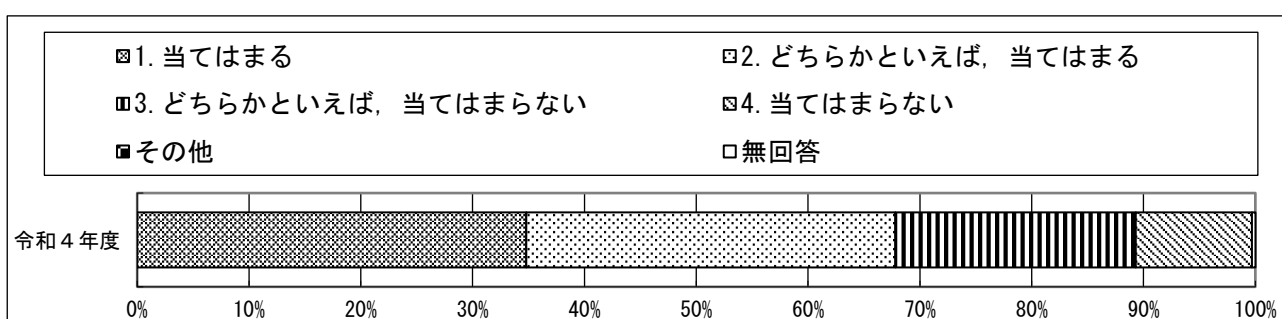
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(14)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	38.0	31.7	19.7	10.6				69.7		0.0	0.0



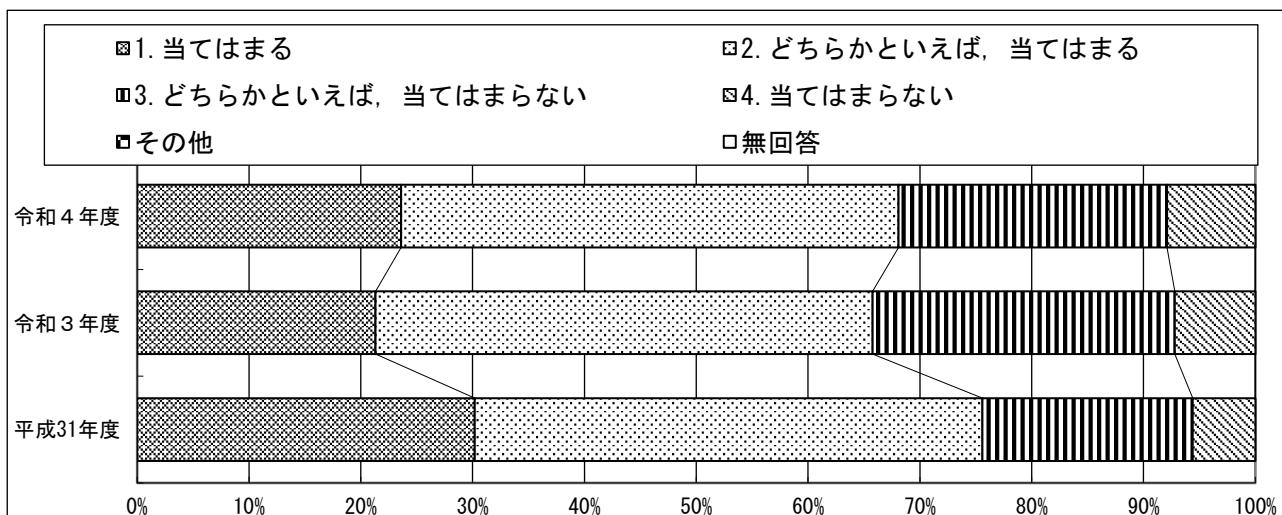
【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(14)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	34.8	33.0	21.5	10.4				67.8		0.0	0.3



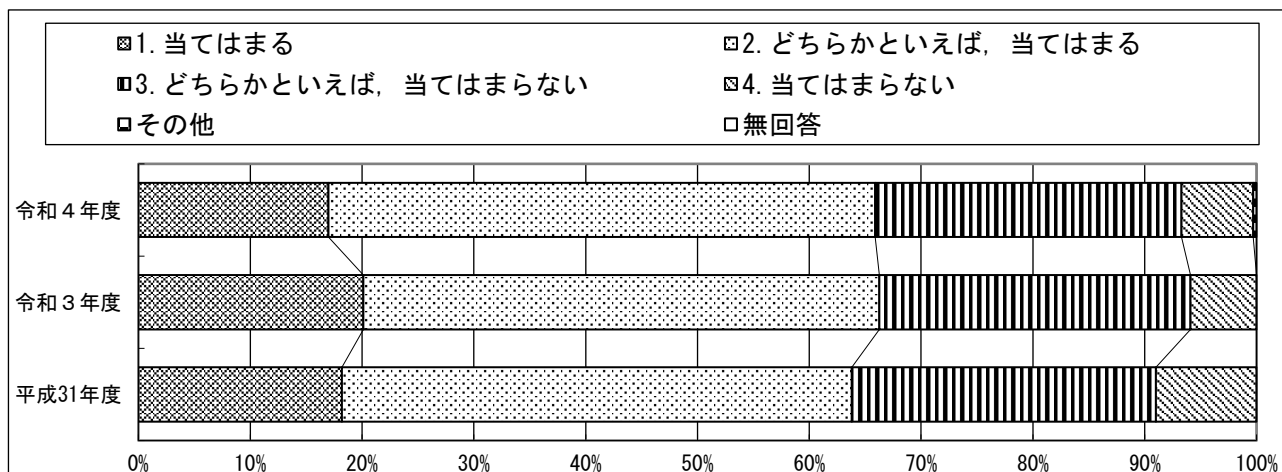
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(11)	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	23.6	44.5	24.0	7.9				68.1		0.0	0.0
令和3年度	21.3	44.4	27.0	7.2				65.7		0.0	0.0
平成31年度	30.2	45.4	18.8	5.6				75.6		0.0	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(11)	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	17.0	48.9	27.4	6.4				65.9		0.3	0.0
令和3年度	20.1	46.1	27.8	5.9				66.2		0.0	0.0
平成31年度	18.2	45.6	27.2	9.0				63.8		0.0	0.0



上記の【児童・生徒質問紙調査(11)】から、児童・生徒が苦手としていることにおいても何とか挑戦しようと前向きに取り組む姿が見られます。これも日ごろから児童・生徒に声をかけて励ましたり、分かりやすい説明となるように工夫したりする教師の陰ながらの努力があります。このような日々の積み重ねによって、あきらめずに取り組むという姿勢が育まれていくと考えられます。教師が児童・生徒一人ひとりに対して、丁寧に関わることで、学習に対する意欲がわき、児童・生徒もあきらめずに取り組もうとする粘り強さが育まれていくと考えられます。教師の姿が、まさに子どもの姿として表れています。

3つの育成すべき資質・能力における「学びに向かう力」が大切にしている側面に、粘り強さがあります。この「学びに向かう力」は、家庭と学校のしっかりとした生活の基盤があってこそ、育まれていくものです。家庭における規則正しい生活習慣の確立と、教師が児童・生徒一人ひとりに対して、温かく丁寧に接することによって、物事に対してあきらめずに前向きな姿勢を育成していくことができると考えられます。

主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して育まれたこと、これからも育んでいきたいこと

「主体的・対話的で深い学び」の授業改善においては、各校での継続的で熱心な取り組みが児童・生徒質問紙調査の結果に表れています。

寒川町の各小・中学校では、校内研究において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、研究に取り組んでいます。また、さむかわ学びっ子推進委員会において、各校の校内研究の様子や状況について、情報交換を通して、互いの学校に持ち帰って参考としながら、さらに研究を深めています。町内全小・中学校で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研究に取り組むことができていることは、とても価値のあること

です。教科調査の分析結果からは、各教科に共通して「理由を記述する」「思考すること」「説明すること」に課題があることが見えてきました。「思考力・判断力・表現力等」を育てていくためにも、「主体的・対話的で深い学び」の授業研究を深めていくことが大切です。

しかしながら、我々が求めていることは「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が目的ではなく、寒川の子どもたちに育まれるべき、3つの資質・能力を育成することが目指すべきゴールとなります。「どんな子どもに育てていきたいか」を常日ごろより意識し、よりよい授業づくりに向けて取り組む必要があります。

今後も、校内研究や学びっ子育成推進事業を柱として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組をさらに推進して、子どもたちの資質・能力を育むとともに、教師の授業力を向上させていきたいと考えています。

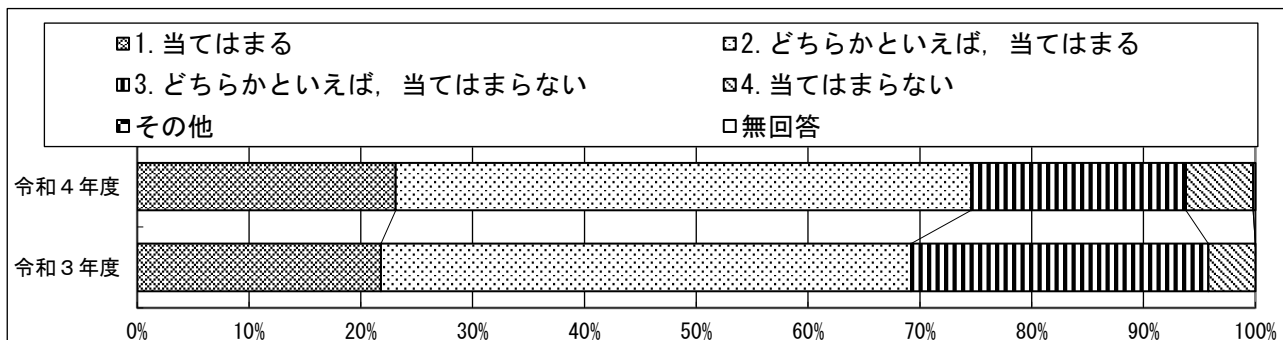
教室を離れても学び続ける子どもの姿を・・・

昨年度より質問紙に加わった項目【児童・生徒質問項目(44)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか】について、この質問項目からは、「授業で学んだことを、次の学習に生かすことができる」、つまり学校での学びを振り返り、つなげることで、他の教科と関連づけたりしながら、活用していく姿がイメージできます。

今日、先を見通すことが難しい時代を生き抜くために、子どもたちには、「自分で課題を見つけ、対話をしたり新しい情報を取り入れたりする中で修正していく力」が必要となります。また、これから先、学習したことをどのように活用するかが大事となってきます。学校では、単に知識を獲得するのではなく、学んだことを活用したり考えを伝え合ったり、さらにそこから自分の考えをまとめ、調整する学習を充実させ、「生きて働く知識」となるように努め、さらには「学びを教室という狭い空間」で完成させるのではなく、「教室を離れても学び続ける姿」を、意識しながら授業を創っていくことが必要であると考えます。家庭や地域では、子どもたちのがんばりを認め、温かいことばで伝えることで、安心して様々な物事にチャレンジできる環境づくりにご協力をお願いします。

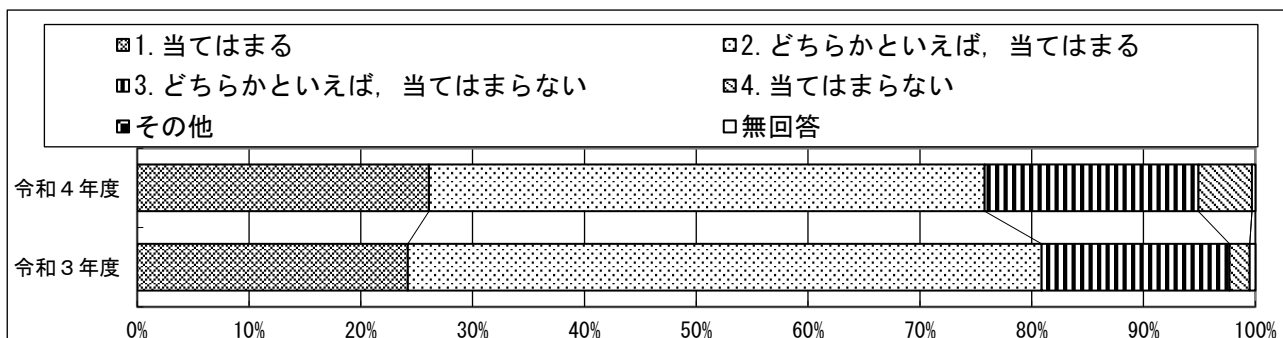
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(44)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	23.1	51.4	19.2	6.0				74.5		0.0	0.2
令和3年度	21.8	47.4	26.6	4.2				69.2		0.0	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(44)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	26.1	49.7	19.1	4.8				75.8		0.0	0.3
令和3年度	24.2	56.7	16.8	1.8				80.9		0.0	0.5



以上のように、児童・生徒の努力、保護者の支え、地域の協力、学校における授業改善の実現によって、寒川の子どもたちの資質・能力が少しずつですが、着実に積み上げられてきていることがわかります。学校、地域、家庭が、子どもたちの未来のために、これからも同じ方向を向いて、一緒に手を取り合って取り組むことが必要です。

今後も、それぞれが適切な役割を果たしつつ、パートナーとして、未来の宝である「寒川の子どもたちのため」に連携、協力していきたいと思います。